

The 2 Chome Times 2020年9月号

NO1のプレミアムストリートをめざして

NO268.

2020・9月・25日



発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス9月号

編集：企画・商業振興部、編集長：芹澤邦明 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★没後 35年鴨居玲 回顧展、圧巻でした

2020年7月31日(金)～8月30日(日)の日程で石川県立美術館に於いて「鴨居玲回顧展」が行われていま



したので行ってまいりました。101作品が5つの展示会場で3章に渡って時代ごとに展示されていて、非常に興味深く観させていただきました。絵画の素晴らしさ、その迫力は言うまでもありませんが、時代時代の作者の人物像や苦悩にまで踏み込んだ説明などが盛り込まれ、単なる絵画展だけではない重みを感じざるを得ませんでした。平日に車で行ってまいりましたが美術館の駐車場はほぼ満車で館内も多くの閲覧者でにぎわって

いました。今回は2回目の石川県立美術館でしたが、金沢の街自体はインバウンドの外国からの観光客が前回と違ってほとんどなく、21世紀美術館などは待ち時間なく入館出来ました。コロナの影響で大変な時ですがコロナを恐れすぎず最大の注意を払いながら行動していきたいと感じています。

石川県立美術館：石川県金沢市出羽町2-1 Tel. 076-231-7580

石川県立美術館ホームページ <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>



★コロナに負けるな、支援の輪

先月の8月13日に沖縄タイムスで一つの記事が載せられていました。内容は沖縄の「夜の街」と言われている繁華街の松山地区が新型コロナウイルス感染症に直撃されていて、仕事が激減。



そこでお二人のお子さんを抱えながら必死に生きようと働いているシングルマザーが窮地に追い込まれているという内容でした。記事は休業手当や失業手当などの恩恵に全くあずかることのない、しかし必死に生きようとする人々に公的にも民間としても、どうかして手を差し伸べていけないものかと問題提起しているものでした。神戸で沖縄タイムスを購読し、その記事を目にした「神戸街創り協議会」の久利会長が当該女性に支援を即決し、神戸の心ある街衆で寄付を集め、8月21日に沖縄タイムス社を通じ女性に寄付いたしました。後日、なんとその女性は「夢・未来号」で街創り協議会が関わっている神戸市の養護学校の出身だとわかりました。驚くべき偶然に関係者一同大変驚き、彼女がどれ程心強く感じたのかと思うと胸が熱くなりました。

神戸と沖縄との強い繋がり、そして社会とは最後は「人と人の繋がり」、またスピード感を持って対応することが“小説より奇なり”を生み出すと強く感じました。



★神戸の水道事情をご存じですか？

9月1日(火)に街創り協議会とファーストのメンバーで神戸市の水道事業管理者の山本泰生氏を招いて神戸の水道事業の歴史と現状についての勉強会が持たれました。神戸開港から150年以上が経ちましたが、開港以降、街として発展していく神戸の歴史は困難な水道施設の発展と密接に結びついていました。

大きな問題は神戸が自己水源に乏しく高低差に富んだその地形から出来ていることにあります。そのため明治 23 年には水不足による不十分な衛生環境下で当時の人口の 1%に当たる 1,157 名がコレラなどの疫



大容量送水管

病で亡くなったのだそうです。現在の神戸市の水源ですが、一日あたりの水源確保量である 86.7 万 m^3 の内、自己水源は約四分の一に当たる 20 万 m^3 にすぎず、約七割を淀川からの水、つまり阪神水道企業団から受水しています。大阪市と比較すれば神戸市の年間総配水量は大阪市の半分にも満たず、給水人口は大阪市の 272 万人に対して 153 万人とざっと半分です。それにも関わらず、総配水管などの長さはほぼ同じですし、ポンプ場は大阪市の 2 か所



緊急貯水槽

に比べ、神戸市は 51 か所もあり、配水池も同じ様に、大阪市は 10 か所、神戸市は 128 か所もあります。つまり神戸市は淀川の水を買って、一旦高い場所までその水を運び、下に流すという非常に厳しい経営環境下にあります。阪神淡路大震災で被害を受けた際はその復旧になんと 3 年が必要でした。そのため現在は排水管（継手）の耐震化や緊急時の貯留システムの整備にも力が入れています。例えば公園の地下に通常は常時通水されている大きな貯水槽を埋め込み、いざという時にはそこから給水するといった工夫がなされています。排水管の継手もちょうどストローの蛇腹部分に似たものが使われ、断層をまたぐポイントに使われています。こういった絶え間ない努力を注いでいるのにも関わらず、神戸市の水道料金はこの 20 年余り据え置かれたままですし、全国的に見ても下から 6 番目です。今後の水道施設の設備投資には約 1,300 億円が必要とされていますが、人口減少やインバウンド需要の減少で水需要が減少し、決して将来を楽観は出来ません。今回、多くの水道事業者の努力により、生命維持に必要な水の供給がなされている事を知る貴重な機会になりました。

★竹村クリニックより今年のインフルエンザ予防接種について

インフルエンザ予防接種を毎年 2 丁目がお願しておりますサンプラザ 3 階の竹村先生から今年の注意点をお知らせ頂きました。

「新型コロナウイルスは武漢型→欧州型→東京型と変異を繰り返し、感染拡大を続けていますが、今後最も危惧されていることは季節性インフルエンザとの同時流行です。国はこれに対して発熱時、インフルエンザの迅速診断と新型コロナウイルスの抗原検査を同時に行うことを推奨していますが、院内感染などの問題があり、これが可能な医療機関は限られてきます。そのため今後は発熱の方がインフルエンザワクチンを受けておられるかが診察のポイントになってきますので、今年はワクチンの早めの接種が求められます。例年同様に 10 月中旬より実施いたします」とのことでした。早めの接種心がけたいものですね。

サンプラザ 3 階竹村クリニック：Tel391-3131 診療時間：月曜から金曜日は午前診 9：30～12：00、午後診は 13：30～15：00 ただし木曜日は午前診のみですのでご注意ください。土・日曜は休みです。

★編集後記

この暑かった夏をずっとマスクを付けた状態で毎日を過ごさねばならなかった皆様、本当にご苦労様でした。涼しくなればグッと楽になりますがこの先もインフルエンザへの予防も含めてマスクが必要なのは変わらない毎日になりますね。ところでマスクの必要性和マスクのゴミ問題が同時に叫ばれています。マスクの多くが化学繊維で出来ているため、一旦ゴミになれば自然には分解されず、環境を汚染していきます。他にもプラスチックのごみ問題、コロナによる巣籠生活で最近増えている生活用品の不法投棄問題、もっと大きいところでは核のごみ問題など、人間の生活にはこのゴミ問題が切り離せず、とても悲しい気持ちになります。だからこそ皆様をお願いします。毎日の生活の中で少しでもゴミ削減への気配りをして行きませんか。例えばプラスチックのストローやスプーンなどは受け取らないなどの小さな努力でも皆さんが進めれば大きな力になります。個人的には少しでも早くドイツのように日本が環境先進国の仲間入りを出来ればと願っております。

